

2022年6月26日

ある本の題名に関して

先日いつものように本屋を散歩していたら（ほぼ日課）平積みになっていた本の中に「トヨタの会議は30分」なる題名の本を見かけた。たぶん会議は30分で済ますくらいでないとダメなのだ、という内容の本だと思う。ただこの題名を見た途端、私は「30分で終わる会議などやるな！」と即座に言ってしまった。会議は中身をよく吟味して簡潔に説明し、出席者の同意をえることが目的で、だらだらして何も決まらない会議を批判しているのかなと思った次第である。たぶんこうした簡潔な会議を行うため担当者が一目でわかるような資料を一日前後の時間をかけて作成し、出席者に文句も言えないような説明を行うことが求められているのかなと思った。土台説明するだけの会議など必要ないし、内容を説明するだけで課題の検討などない会議などむしろ時間の無駄だと思った。資料の同意を得るだけなら資料を配布してコメントをもらえばいいだけだろう。立派な資料を作成するために担当のエンジニアが作成に一日も時間をかけるほうがおかしい！会議をするなら事前に課題を関係者に配布して、相談し、結論を出すために集まった人たちで考える。これが必要なものであって、この課題に関係ない人は出席する必要はない。すなわち説明して合意をもらうだけの会議などするな！と言いたい。「トヨタの会議は30分」などというキャッチコピーは中身のない説明だけの会議と思われ、そんな会議じゃないよと言いたくなった。誰が見てもわかる立派な資料を作るくらいなら、個別に担当者と経験者とが相談して課題対応策を見つめればよいのではないかと思う。このことをわざわざ本にまとめる人もおかしくないだろうか？